

日本ってどうなっていくんだろう

今回は少し趣の異なる、若干過激なお話をさせて頂きたい。ここ数日のうちにとでも考えさせられるニュースが二つあった。

まず一つ目は「神戸製鋼」

実は当初はある種の同情をしていた。私がマレーシア時代に鉄鋼の仕事や、鉄鋼を材料とした部品製造に携わっているときに、数多くの過剰品質を体験していたからである。

特に、「環境だ」「ECOだ」とクローズアップされた2000年以降、丁度アナログからデジタルに切り替わる時に、その傾向が顕著になっていった。その頃から鉄鋼材料はJIS規格の1/2は当たり前、場合によってはエクストラコストは掛かるもののJISの1/4を求められたりもした。表面についた傷（というよりほぼ筋に近い）は、血眼になって探された挙句に、NG判定されてスクラップへ。。。「何がエコだよ」と腹立たしい気持ちに何度もなつたものだ。

そついう背景もあつたので、今回の事態は「定められた社内基準を守らないのは決して褒められたことではないが、それは不正ではなく、基準設定が間違っているのだ。」

『問題はおきない』という技術者の判断（善しあしは別にして）があつたのではないか。実際、それによる品質問題は起きていないではないかと思っていた。が、しかしその後、出てくる出てくる、「JIS規格を満たしていない」「出荷検査をしていない」。。。もはやれっきとした不正である。憤りや呆れと言うより、むしろ悲しい出来事である。日本っていつからこんな国になってしまったんだらう、という寂しさ、悲しさである。ただ、それでも品質問題はいまのところ不幸中の幸いであるが、発生してはいない。仮にそれが原因で問題が発生した場合、モノがモノだけに必ず最悪の事態になる為、そうならないで欲しいと心より願っている。

今しがたニュースでは今年度決算見込みを「不明」と公表していた。会社自体が直近で取り返しのつかないほど揺らぐことはない、と見込んでいるのであろう。

そして、まことしやかに「どういう時の為に内部留保はなくてはならない」と、日本的な考えが賞賛されているのかも知れない。

また、場合によっては、きつと国民の1%もその存在を知らない政府系のファンド（＝税金）が、堂々と支援する事態になるのかも知れない。もしくは、それを回避したとしてもJFEや日鐵住金が傘下に収めるのかもしれない。

ただ、シャープや東芝を見てみると、是非、TATAやPOSCOに参入して貰いと本気で思っている。もはや、日本人では日本の企業を救えないのではないかと思っている。

二つ目の気になったニュース

こちらはあまり大きく取り上げられていなかったが、三菱東京UFJが今後10年で20%の店舗九千五百人の従業員を削減すること、そしてMIZUHOも一万九千人の従業員削減を発表した。マイナス金利による業績悪化、IT活用による効率化やインターネットバンキングの拡大がその要因とされている。これも大きな意味ではシンギュラリティの始まりなのだろうか。

この2つのニュース。前者については「内部統制」の話と「品質基準の見直し」を是非、両輪でやって頂きたいと切に願っている。

恐らく「内部統制」のみがクローズアップされてしまつてあろうが、是非、品質基準の見直しもやって頂きたい。まあ、無理でしょうが、ひとつの願いとして。

そして後者については、既に日本が大きな転換期に差し掛かっていることを感じざるを得ない出来事。きつと、10年後は今とは全く異なる景色になつていくことであらう。

その時、うちの娘は15歳、高校生か。。。来年から小学生である。

東洋建設様 セルドロン採用

東洋建設様が建設している新築マンションの残コンにセルドロンが採用されました。

マンションへの生コンクリート打設には、圧送車で生コンを送らないといけません。そこに使う先行モルタルの処理が課題だったそうです。生コンクリートを送るために、圧送車の配管の中を湿潤状態にさせ、生コンクリートが閉塞しないように、五百リットルものモルタルが先送りされ、ゴミとなります。

モルタルは、液体のままでも扱いづらいが、硬化して塊になっても扱いづらい。どれだけ厄介か経験された方にはすぐに分ると思います。例えばイメージしてみてください。部屋の中にプール二つ準備してモルタルを置いておく、徐々に硬化し塊になってしまい、部屋から出すにはハンマーなどで小さく砕いてからしか、外に運べません。砕くのにどれだけの時間と力が必要な作業か・・・

考えただけでも大変な作業とわかります。東洋建設様は、**使い終わったモルタルにセルドロンを混ぜ作業の効率化を図りました。**セルドロンは、モルタルの水分を吸着し流動性を低下させ、砂のような状態に変化させます。

たった数分で扱いやすい状態になり、モルタルの処分も楽になる。少しづつではあるが、このような現場の度にセルドロンが当たり前になれば作業の効率化が図れると思います。



今回は持ち運びに便利なセルドロン10kg袋を使用



モルタルにセルドロンを入れて攪拌します。



数分でパラパラになります。

ポイント

セルドロンは
5kg袋 (在庫限り)
10kg袋
300kg袋
で販売中
現場に合ったサイズで
購入頂けます。

「テーマ」 土壤汚染を考える(2) POPS偏

セルドロン研究員Xのニーム

今回は日本の土壤汚染についてざっと見てきました。今回は汚染物質のPOPsについて考えてみます。

DDT、PCBとかを少しは聞いたことがありますがでしょうか。DDTは体に寄生したシラミ駆除や農薬に、PCBは高温でも変性しない夢の物質として電気部品のコンデンサに使われていました。しかし科学が発展するにつれて、これらの化学物質は人体に影響を与えることがわかって、一気に悪者になっていったんです。

これら総合してPOPs(Persistent Organic Pollutants)、日本語で「残留性有機汚染物質」と言われている。特徴として

- ① 自然環境で分解しにくい(難分解性)
 - ② 食物連鎖などで生物の脂肪内に蓄積(高蓄積性)
 - ③ 風、海流、雲に乗って移動し極地などに蓄積(長距離移動性)
 - ④ 生物や生態系に対して有害性(有害性)
- などが挙げられます。

先進国では、廃棄物の多くは焼却処分されているが、この焼却の「燃焼」といった課程で、非意図的に生成されて、大気に拡散されてしまう。やがて土壌や海洋を広く汚染してしまうから、困ったものです。

例えば、土壌にPOPsが蓄積すると作物から吸収されて、やがて人間のお口に入ってしまう。また海洋ではお魚にも蓄積して、私たちはそれを知らずにおいしく食べてしまっています。